令和５年度　江戸川区立上一色中学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	一　自ら学ぶ生徒 一　心身を鍛える生徒 一　社会をつくる生徒	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者、地域と連携し、信頼され豊かな教育活動を展開する学校 ・自律し、国家・社会の一員としての自覚と貢献する気持ちをもった生徒 ・熱意をもって職務に専念し、確実な学力に向け豊かな教育活動を展開する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞①学力向上に向け、ICT機器を利用し、対話的な授業への取組が増加した。 ②道徳教育については、議論・対話する道徳授業が定着してきた。 ＜課題＞①学力向上に向けての取組をさらに充実を目指す。 ②特別支援教育の充実を目指す。 ③読書科でICTや学校図書館の活用による探究学習の充実を目指す。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・研究授業、協議会での主体的・対話的で深い学びの研修を行う。 ・放課後補習授業を計画的に実施し、数学・英語の基礎力の向上を図る。	・生徒が、生活アンケートで授業がわかる、達成感の感じられるという肯定的な回答を8割以上得る。 ・補習授業を行う数学・英語の下位層の底上げを図る。 ・学校独自で補習授業を定期的に行う。	B	B	アンケートの結果、わかる・だいたいわかるが、教員全員が85％以上の肯定的な回答を得ている。 定期考査前に補習授業を行っている教科が増えてきたが、全教科でできるように取り組んでいく。	B	生徒が内容がわかるできたと思える授業を取り組んでほしい。補習授業を活用し、多くの生徒が参加できるように促してほしい。	学校独自で補習授業を増やすことや授業での工夫、課題を増やすことなどを取り組み、中間層・下位層の学力を向上させていく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科の成果物作成と、計画的な読書科の取組を行う。探究的な学習の良さを理解させ、問題を解決してふさわしい発表を経験させる。	・3年生は3年間の集大成、卒業研究を完成させ、文化祭で展示する。 ・1・2年生は学校図書館での調べ学習を2回以上実施する。	B	B	現在、卒業研究や調べ学習に取り組んでいる。	B	文化祭や学校公開を通じて、生徒の作品を見れることを楽しみにしている。学校図書館も整備され、きれいになった。今後も維持をして多くの生徒が活用してほしい。	現在の卒業研究等、学校独自で行っていることを継続し、さらに使いやすい学校図書館の整備をすすめていく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	・体育授業前の上中トレ-ニング（5分）を実施する。 ・運動が楽しいと思えるように、レクレーション的な取り組みを行う。	・体育授業前の上中トレ-ニングを毎時間実施する。 ・レクレーション活動を学期に1回以上行う。	B	A	毎時間、トレーニングを行うことができている。アンケートでも体育の授業での楽しさを自由意見に記入している生徒が多い。	A	体育の授業を通して、トレーニング内容の厳選を行い、スポーツの楽しさを伝えてほしい。	体育の授業や部活動を通して、基礎基本的な運動能力や体力の向上を目指していく。また、レクレーション的な部活動を継続し、楽しい運動も取り入れていく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・エンカレッジルームの活用、ステップサポーターを活用し、毎日支援できる体制を整える。 ・副籍では、直接交流や間接交流を行い、共生社会の理解を深める。	・エンカレッジルームの柔軟な活用を行い、毎日の支援体制を実施する。 ・副籍交流では、鹿本学園との関りを通して、年間3回以上の交流を実施する。	B	A	エンカレッジルームを柔軟に、円滑に活用できている。 副籍交流では、鹿本学園のコーディネーターの先生と協力しながら、取り組みができている。	A	不登校の生徒が多くなっているが、様々な手段を講じて、人数が減っているので、学校の取り組みの成果を感じている。学校と家庭との協力が説明でわかった。	エンカレッジルームを活用する生徒が増えても対応できるように学校としての環境整備を整えていく。鹿本学園との副籍交流を継続していく。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer−QUの活用	・特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員が中心に情報共有や共通理解を図り、全校体制で組織的な対応ができるように整える。	・特別支援校内委員会を2か月に1回以上行い、組織的に対応ができるように、支援体制を実施する。 ・ハイパーQUを年2回行い、学級や学年で活用する。また、hyper−QU研修会を行い、教員の知識活用を深める。	A	A	2か月に1度以上、必要に応じて、組織的に特別支援校内委員会を実施している。 Hyper−QUの研修会を行い、分析の仕方や見取り方、学年内での意見交流を行うことができた。	A	情報共有を行い、定期的に、特別校内委員会を開催してほしい。	特別支援コーディネーターや特別支援教室専門員が中心に情報共有や共通理解を図り、全校体制で組織的な対応ができるように、さらに環境整備をしていく。
	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	・学校生活全体でいじめの未然防止。個に応じた対応を行う。いじめ防止基本法に基づき職員全体で共通理解を図る。	・アンケートを各学期実施していじめの早期発見・事前防止に取り組む。組織的解決を目指す。	B	A	予防的な対応として、校長講和や特別な教科道徳、学年集会を通して、生徒へ訴えかけている。また、いじめが発生した時には、学年を中心に組織的な対応を行っている。	A	アンケートだけでなく、日頃の生徒の様子をみて、学校全体で未然防止してほしい。	いじめが起こらない魅力ある学校を目指して
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・地域、家庭に定期的にHPやtetoruで通知する。	・HPの更新は、学年のHP担当者が週1回以上行う。	A	B	学校生活全般を発信するようにしているが、週に1回以上、できていない場合があった。	A	学校だより、HPの更新を定期的に行ってくれている。	学校だよりやHP、tetoruを活用しながら学校の取り組み情報をさらに伝えていきたい。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会で地域から見た学校の意見を集約・確認し、充実・改善に取り組む。	・学校評議員会で年2回アンケートを行う。	B	B	1回目のアンケートでは、学校は充分に地域と連携を取りながら活動しているという評価をいただいた。また、生徒の挨拶が素晴らしいという評価をしていただいたので、継続していきたい。	A	学校評議員会だけではなく、地域の意見もよく聞いてもらっている。	来年度も今年度と同様に学校評議員会を開催し、教育活動の充実を図る。
	＜保護者との信頼関係の構築＞	・三者面談で三者が納得できる面談の実施を年2回行う。	・学校生活について保護者アンケートで肯定的な回答を8割以上得る。	B	—	アンケートについては、2学期末に行う予定である。	A	学校に肯定的な意見が多く、安心した。	日々の生徒・保護者との交流から信頼関係を構築し、アンケートで全項目が肯定的な意見が9割を超えるように努力していく。
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・校務分掌の見直しを図り、仕事内容の精選を行う。 ・定時退勤を促し、在校時間を見直す。	・校務分掌の見直しを12月までに行い、仕事の精選を行う。 ・教員の平均在校時間を前年度よりも15分減らす。	B	B	教員の在校時間を意識させ、早い帰宅時間を促している。	B	管理職が努力している成果がある。	教員が疲弊しないように、声をかけながら、在校時間を短くできるようにしていく。
	＜小中連携教育の推進＞ ・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・「小中連携教育構想」に基づく取組の実施。	・児童の授業体験、部活動交流、教科・領域別連携プログラムの実施8割。 ・生徒会が小学校に行き、中学校紹介を年1回行う。	A	B	連携小学校6年生を本校に招き、授業見学、授業体験、部活動体験を行うことができた。	A	小学校とのつながりをさらに深く長く行ってほしい。	今年度と同様に小中連携を充実させていく。
	＜道徳教育の推進＞ ・自分の考えをもち議論する道徳授業 ・いじめ防止基本法に基づく授業を実施	・道徳授業の研究授業を各学年、年1回取り組む。	・「いじめ防止」に向けた授業を年1回実施する。	B	A	特別な教科　道徳でいじめを題材とした授業を行い、実生活を通して振り返りを行った。	B	校長先生の方針がしっかりと教員や生徒に伝わっていると感じた。	特別の教科道徳の時間や朝礼での講話等を活用し、さらに道徳教育を充実させていく。